

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 18 年 7 月 13 日 (2006.7.13)

【公表番号】特表 2002-522400 (P2002-522400A)

【公表日】平成 14 年 7 月 23 日 (2002.7.23)

【出願番号】特願 2000-563381 (P2000-563381)

【国際特許分類】

C 0 7 C 309/30 (2006.01)

A 0 1 N 25/30 (2006.01)

A 0 1 N 37/22 (2006.01)

A 0 1 N 37/26 (2006.01)

A 0 1 N 43/70 (2006.01)

A 0 1 N 43/713 (2006.01)

B 0 1 F 17/38 (2006.01)

C 0 7 C 217/08 (2006.01)

C 0 7 C 309/35 (2006.01)

A 0 1 N 43/824 (2006.01)

B 0 1 F 17/12 (2006.01)

B 0 1 F 17/46 (2006.01)

【F I】

C 0 7 C 309/30

A 0 1 N 25/30

A 0 1 N 37/22

A 0 1 N 37/26

A 0 1 N 43/70

A 0 1 N 43/713

B 0 1 F 17/38

C 0 7 C 217/08

C 0 7 C 309/35

A 0 1 N 43/82 1 0 1 E

B 0 1 F 17/12

B 0 1 F 17/46

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 5 月 24 日 (2006.5.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

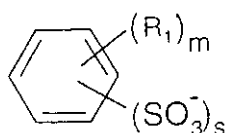
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 少なくとも 1 の農薬と、以下の式 $\{ (H - B)^+ \}_n A^{n-}$:

{ 式中、 A^{n-} は以下の :

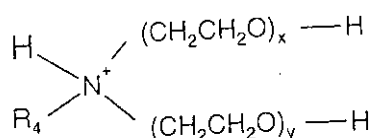
【化 1】



(ここで、各 R_1 は独立して $C_8 - C_{22}$ アルキル及び $C_8 - C_{22}$ アルキルアリールから成る群から選ばれ、 m は 1 ~ 5 の数であり、 n は 1 ~ 3 の数であり、そして s は 1 ~ 3 の数である。)

であり、そして $(H - B)^+$ は以下の式：

【化 2】

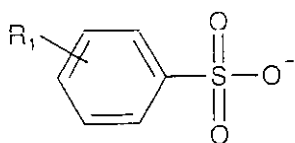


(ここで、 R_4 は、 $C_7 - C_{19}$ アルキル及び $C_7 - C_{19}$ アルケニル - $CH_2 -$ から成る群から選ばれ、そして $x + y$ は 2 ~ 15 の数である。) により表されるカチオンである。} により表される塩化合物とを、含む農薬製剤。

【請求項 2】 以下の式 $(H - B)^+ A^-$ ：

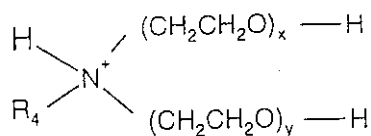
{ 式中、 A^- は以下の：

【化 3】



(ここで、 R_1 は $C_8 - C_{22}$ アルキルである。) であり；そして $(H - B)^+$ は以下の式：

【化 4】



(ここで、 $x + y$ は 7 ~ 9 の数であり、そして R_4 は先に定義したものである。) により

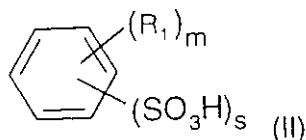
表されるカチオンである。}を有する、請求項 1 に記載の農薬製剤。

【請求項 3】 R_1 が n - ドデシル基である、請求項 2 に記載の農薬製剤。

【請求項 4】 R_4 が n - オクタデシル、 n - ヘキサデシル及びシス - 9 - オクタデセニルから成る群から選ばれ；そして $x + y$ が 8 に等しい、請求項 2 に記載の農薬製剤。

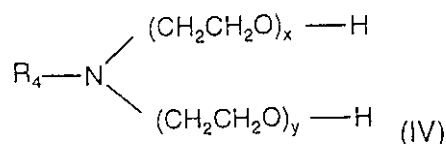
【請求項 5】 以下の式 (II)：

【化 5】



{ 式中、各 R_1 は独立して、 $\text{C}_8 - \text{C}_{22}$ アルキル及び $\text{C}_8 - \text{C}_{22}$ アルキルアリールから成る群から選ばれ、 m は 1 ~ 5 の数であり、 n は 1 ~ 3 の数であり、そして s は 1 ~ 3 の数である。}により表される少なくとも 1 の芳香族スルホン酸を、以下の式 (IV)：

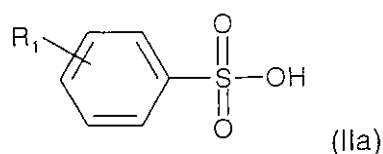
【化 6】



{ 式中、 R_4 は、 $\text{C}_7 - \text{C}_{19}$ アルキル及び $\text{C}_7 - \text{C}_{19}$ アルケニル - $\text{CH}_2 -$ から成る群から選ばれ、そして $x + y$ は 2 ~ 15 (含む) の数である。}により表される少なくとも 1 のエトキシ化アミン塩基で、中和するステップを含む、請求項 1 に記載の農薬製剤の製造方法。

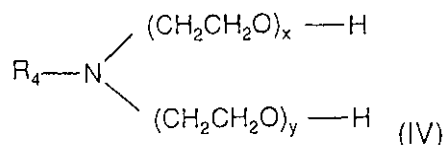
【請求項 6】 前記少なくとも 1 の芳香族スルホン酸が、以下の式 (IIa)：

【化 7】



{ 式中、 R_1 は $\text{C}_8 - \text{C}_{22}$ アルキルである。}により定められる化合物であり；そして前記少なくとも 1 のエトキシ化アミン塩基が以下の式 (IV)：

【化 8】



{ 式中、 R_4 は C_7 - C_{19} アルキルであり、そして $x + y$ は 7 ~ 9 の数である。 } により表される、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 7】 イソプロパノールと水の溶液中の前記芳香族スルホン酸成分 (II) と前記エトキシル化アミン塩基成分 (IV) の比が正確に調節され、その結果、前記式 $\{ (\text{H} - \text{B})^+ \}_n \text{A}^{n-}$ の界面活性化合物の調製における制御因子としての pH 範囲が、3 ~ 7 の pH となる、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 8】 イソプロパノールと水の溶液中の前記芳香族スルホン酸成分 (II) と前記エトキシル化アミン塩基成分 (IV) の比が正確に調節され、その結果、前記式 $\{ (\text{H} - \text{B})^+ \}_n \text{A}^{n-}$ の界面活性化合物の調製における制御因子としての pH 範囲が、4 ~ 6 の pH となる、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 9】 イソプロパノールと水の溶液中の前記芳香族スルホン酸成分 (II) と前記エトキシル化アミン塩基成分 (IV) の比が正確に調節され、その結果、前記式 $\{ (\text{H} - \text{B})^+ \}_n \text{A}^{n-}$ の界面活性化合物の調製における制御因子としての pH 範囲が、5 ~ 6 の pH となる、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 10】 前記少なくとも 1 の農薬がメフェノキサム (mefenoxam)、s - メトラクロール (s - metolachlor)、フルメツラム (flumetsulam)、フルチアセツ - メチル (fluthiacet-methyl)、アトラジン (atrazine)、及びグリフォセート (glyphosate) から成る群から選ばれる、請求項 1 に記載の農薬製剤。

【請求項 11】 保護の必要な作物の場に、農業的に有効な量の請求項 1 に記載の製剤を適用するステップを含む、作物保護方法。

【請求項 12】 保護の必要な作物の場に、農業的に有効な量の請求項 2 に記載の製剤を適用するステップを含む、作物保護方法。